



ここがアガる  
自然と  
一体になる  
快感

# 作る人の顔と畑が見える 野菜の美味しさ 新発見!

1. 何を育てているのか畑に興味深々な参加者たち
2. 採れたてのさつまいも! でも寝かせておくとデンプンが糖質に変わってもっと美味しくなるのだそう
3. 「里芋ってこう育つんだ!」初めての体験に夢中になる参加者の親子

参加してみよう!  
Open Field

- 参加費 / 1組1,000円 (収穫した野菜は希望する量だけ購入できます)
  - 開催時期 / 年2回...5月、10月(予定)
  - 当日の大まかな流れ  
野菜クイズ→収穫体験①→収穫体験②→収穫体験③  
→収穫野菜の購入→畑遊び、交流会
- ※内容・収穫野菜は時期によって異なります ※詳細は要問合せ



「Open Field」は、旅先で美味しい料理に出会おうとその野菜が買える直売所などを巡るのが好きなのですが、「自分たちの住む街にも、ものすごく美味しい野菜があるじゃん」と、新たな発見にとっても嬉しくなりました。まさにお腹も心も満たされる野菜体験でした。

## おなかも心も 満たされる野菜体験

そんなOpen Fieldに私たちも参加することに。青い空の下に広がる畑の土を触ったり有機野菜を採ったりと自然と触れ合ったこともあったか、参加後はスッパリとした晴れやかな気分になりました。そして、収穫したさつまいもと里芋をさつそくレンジで蒸して食べてみると、これが絶品! さつまいもは甘く、さといもはホクホクでねっとり。野菜本来の甘味と美味しさの虜になってしまいました。また、「作る人の顔が見える」のはもちろん、「畑が見える」野菜からは、自然とのつながりも感じることができ、「豊かだな」と満たされた気持ちになれるのです。

私たち二人は、旅先で美味しい料理に出会おうとその野菜が買える直売所などを巡るのが好きなのですが、「自分たちの住む街にも、ものすごく美味しい野菜があるじゃん」と、新たな発見にとっても嬉しくなりました。まさにお腹も心も満たされる野菜体験でした。

## 野菜との向き合い方が 変わるかも

普段会社員として働く私たちには、遠い世界という感覚があった農業と畑。生川さんは、「社会人向けの企画なども開催し、色々な人に畑を訪れてほしい」と話します。「畑や野菜の持つ様々な姿や魅力を知るきっかけをもっと作ってきたい」。このような考えは、生川さんのこれまでの経験があつてこそ生まれてくるのかもしれません。

## Salad Field

さいたま市見沼区  
※お問合せはInstagramより

【Instagram】



地域の飲食店(さんかくカフェ、お茶カフェ、everiwa、cafe maru、misu's kitchen等)、オーガニックプラザコトーンシティ店、イオン与野店、ヤオコー川口SKIPシティ店

【販売している野菜】

里芋、ねぎ、人参、大根、レタス、白菜、ケール、ルッコラ、水菜、小松菜、ジャガイモ、ブロッコリー、ミニトマト、ナス、ピーマン、オクラ、ズッキーニ

※季節や栽培計画によって変動します

DATA

## 本物の価値と魅力を知る 有機野菜との出会い



## 個性を活かす有機農業 「Salad Field」

Open Fieldの開催場所は、見沼区で農業を営む生川寛之さんの畑「Salad Field」です。生川さんは東京大学・大学院を修了後、大手ゼネコンへ勤務。その後、マサチューセッツ工科大学で理学修士号を取得し、埼玉県農業大学校で有機農業を学んだ後、2024年4月に有機農家の道へ転身、というユニークな経歴の持ち主。就農を決意したのは、「得意なことやそれが持つ強みといった個性を活かして働ける環境を作りたい」という想いから。

生川さんの考える「個性を活かして働ける環境」とは、「様々な生態系が作用しながら、それぞれの特性を持った作物が育つ有機農業」が、多様性を尊重するという点で似ていると感じ、この世界へ飛び込んだと言います。本格的に畑を開いてから約1年、生川さんの畑では30種類ほどの有機野菜を育てています。

わたしたちが取材しました!

市民ライター  
まっしーさん・よっしーさん (大宮区在住)

小さい頃からさいたま市で育ちました。2人とも旅行が好き。住むならやっぱり、さいたま市と思っています。(まっしー)  
生まれも育ちもさいたま市。2人とも美味しいものが好き。沢山食べた後は氷川参道を散歩するのが定番!(よっしー)